

奥ヶ追山 702.3m 知見八原より

ポンポン山雑感

2017年6月27日

三鍋敏郎

奥ヶ追山は地形図に山名は無い。2016年10月に田歌集落から伊藤谷の集水域の稜線を半時計回りに歩いたことがある。尾根には自然林が多く残り奥ヶ追山周辺にはブナ林もあり、大変魅力的な面白い山であった。

今回は美山町知見八原集落から登ることにした。地形図を見ると、知見川沿いに標高319mの表示がある。その319mから南南東に方向に高度を上げる尾根が続いている。その尾根の東側には「寺の奥谷」があり、その右岸の尾根に標高566mのピークがある雲形定規のような複雑な地形の尾根がある。本日は二つの尾根を反時計回りに歩いてみる。

八原集落にある標高319m近くの橋の手前の空き地に車を停めて登山準備。通りかかった軽トラの小父さんの不審そうな視線を無視して、尾根に取り付く。足元にはセリバオウレンの株が残っている。比較的歩きやすい尾根である。すぐに自然林にイヌブナなどが混じり退屈することはない。林床にはイワカガミの群落があり、春は賑やかだろう。時折植林地が現れるが、ほぼ自然林の尾根が続く。

標高590m辺りで前方に鉄塔が見えてくると急に藪が深くなりサルトリイバラが目立つが、鉄塔に向かって右手に進むと巡視路に出る。

鉄塔を越えた辺りからやや斜面が急になるがブナ林が広がり、快適な尾根歩きを堪能出来る。西尾根を登りきると北尾根に乗る。広々とした台地状の広場である。そこを少し進むと昨年10月に歩いた伊藤谷集水域の尾根と合流する。快適なブナ林を南西に進むと本日の目的の奥ヶ尾山に到着する。傷の少ない三等三角点があり、広々とした心休まる穏やかなブナ林の広場である。

ブナの山頂を後に北にあるP700mまで引き返し、北尾根を歩く。複雑な尾根を検証しながら、送電鉄塔のあるP566mを見つける。この辺りは雲形定規状の難しい地形が広がり現在地の特定が難しい領域である。標高500m辺りから再び尾根が分岐し、下山予定の北に向かう尾根に進もうと思ったが濃厚なユズリハの低木樹林に行く手を阻まれる。仕方なく西に向かう尾根に逃れると獣道も明瞭になり、それを辿りながら暫く歩くと知見川に出た。水量の少ない谷を渡るとすぐに車道に出る。P319mの駐車地はすぐそこだ。

★メンバー三鍋・他1名 ★コース 319m8:46～鉄塔 9:37 発 45～北尾根合流 10:02～奥ヶ追山 10:12 発 23～566m鉄塔 10:45～450m11:18 発 11:42～知見谷 11:54～車 12:03